

事務事業名		市民バス整備事業	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
総 計 画 体 系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち《定住環境》	所属G	定住・公共交通グ ループ	課長名	高田 浩二
	施策名	(14)公共交通ネットワークの充実	担当者名	藤本 万葉	電話番号	0854-40-1014 (内線) 2321
	目的 対 象	公共交通機関利用者 意 図 市内及び市外に向けて安全・便利に移動できる。	予算科目	会計 款 大事業 大 0 1 1 0 0 2 事業 項 目 中事業 中 0 5 7 5 0 9 事業	公共交通対策事業 市民バス整備事業	
	基本事業名	(039)公共交通体系の確保	目的 対 象	公共交通機関利用者 意 図 利便性の高い公共交通機関を利用する。		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (23 年度 ~)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
雲南市民バス事業を継続的に安全に行うために、計画的に車両の更新を行う。(目安は、車両年数が12年(過疎対策事業償還年数)を超過あるいは走行距離が50万キロでの更新が望ましい)

(2)事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動					
	30年度実績(30年度に行った主な活動) 中型バス29人乗り 1台購入 小型バス14人乗り 2台購入	元年度計画(元年度に計画する主な活動) 中型バス29人乗り 2台購入 小型バス14人乗り 1台購入				
	② 活動指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)
ア	更新台数	台	3	1	3	3
イ	車両数	台	28	28	28	28
ウ	修繕費(全体)	千円	16,340	9,824	13,209	11,280
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)	
	老朽化したバス車両	ア	10年経過車両数(当初)	台	7	7	7	1
		イ	15年経過車両数(当初)	台	12	9	7	9
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)		
古い車両が減り、安全で計画的に運行を行うことができる車両が増える。	ア	10年経過車両数(更新後)	台	7	7	1	1	
	イ	15年経過車両数(更新後)	台	9	7	9	6	
	ウ							

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)	
車両本体購入費18,755千円、修繕費(スクールバス改修)1,296千円、手数料200千円、自賠責保険料32千円、自動車重量税32千円	財 源 内 訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円	23,800	16,200	18,700	30,700
		その他	千円				
		一般財源	千円	397	140	1,615	3,775
	事業費計(A)	千円	24,197	16,340	20,315	34,475	
人 件 費	正規職員従事人数	人	2	2	2		
	延べ業務時間	時間	297	297	297		
	人件費計(B)	千円	1,178	1,211	1,287		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	25,375	17,551	21,602		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
市民バスは現在28台管理体制。うち車齢が10年を超える車両が10台あり車両の老朽化が深刻。近年の高速バス死亡事故等により安全性も厳しく問われている。また、冬季は積雪により4WD車両でない路線は、やむをえず大幅な迂回運行や路線短縮等が生じている。更に、市民バス車両は市民バスの運行の空き時間を利用して、子ども園や小学校等の学校活動にも頻りに利用されている。	当初の車両更新計画からすると、更新が遅れが生じている。改めて平成31年度以降で計画改善をし、一刻も早く古い車両を更新していく必要がある。	運行業者からは安全管理上老朽化した車両はできるだけ早く更新するよう要望がでている。このままの状況が続くと、重大な事故や故障等で市民バスの運行ができない事態を招くと危惧されている。また、昨年度は冬季の積雪により古い車両を使用している路線では大幅な運行の遅れが生じ、市民から苦情が出ている。

事務事業名	市民バス整備事業	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
-------	----------	-----	-------	-----	------------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合		
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合		
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合		
B 有効性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	年次の計画的にバス車両を更新する必要がある。28台保有しており、購入後10年以上経過した車両も相当数あることから、安全運行の観点からも計画的な車両の更新が必要。その際に、車両の適正台数や車両規模を熟考し、行うものとする。		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない				
⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？				
<input type="checkbox"/> 影響無	理由	市民バスの安全で計画的な運行が不可能。			
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有					
⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？				
<input type="checkbox"/> 他に手段がある	* ある場合	(具体的な手段や類似事業名)			
<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる					
<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない					
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	理由	類似事業はない。道路運送法上、市民バス車両は登録した車しか使用できない。			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)			
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	10年経過車両が多くあることから、修繕費が年々増加傾向にあり、すぐに削減することはできない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない				
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？				
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	備品購入であり、人件費の削減余地はない。			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない					
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	すべての市民が利用できるバスであるため、公平・公正である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である				
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)		
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	保有車両に比較し計画的な車両の更新が進んでおらず、10年以上経過し走行距離も30万キロ～50万キロ以上となっている車両も多数存在する。適切な修繕等を行い安全運行に細心の注意をはらっているが、今後、修繕では効かない故障の発生も懸念されるので、計画的な更新が必要である。そのため、当該事業は適切である。		
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり			
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
車両の適正台数や車両規模を考慮し、より計画的な車両更新を実施していく。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		